

LM corsa

60

OTG MOTORSPORTS

GT300

● A.Iida

● H.Yoshimoto

OTG MOTORSPORTS × INGING MOTORSPORT

General comment

昨シーズンに続いてLMcorsaは、OTGモータースポーツとインギングモータースポーツとのジョイントで活動を継続していく。60号車は昨シーズンデビューのレクスRC F GT3を、3年目のタッグとなる飯田章選手と吉本大樹がドライブする。また、51号車はBMW Z4 GT3からフェラーリ488 GT3にスイッチし、新田守男選手が継続して起用された一方で、都筑晶裕選手が新たに加わることとなった。

大阪オートメッセ2016で体制が発表されてから1か月あまりが経過、今シーズン最初の公式テストが3月19～20日に岡山国際サーキットで行われた。今シーズンのRC F GT3はエンジン面には変化はないものの、駆動系の強化、ブレーキローター径の拡大、そして吸気性の向上を目的としたエアロパーツの変更などが行われており、大いに期待を抱かせることとなった。

セッション1は土曜日の9時30分から、2時間に渡って行われた。未明まで降り続いた雨の影響であいにくのウェットコンディションでの開始となり、全車がまずはウェットタイヤを装着しての走行になった。最初にステアリングを握ったのは吉本選手。濡れた路面とのRC F GT3の相性は昨シーズンも実証済であったため、この時点では上位陣とも引けを取らないタイムで走行。フィーリングの確認もできたことから、間もなく飯田選手に交代する。1時間を経過しようという頃、路面も乾き始めてドライタイヤに交換する車両も。周囲が徐々にタイムを縮めていく中、飯田選手も縮めてこそいたが、やや伸びを欠くようになっていた。

それでもピットに入るたび、セッティングを変更して残り10分となった頃、飯田選手は1分30秒004を記録して、まずは18番手につけることとなった。その直後に15分間で行われたサーキットサファリでは、再び吉本選手がドライブ。観客を乗せたバスとの混走が終わると1分31秒692を記していた。

14時からセッション2がスタートし、もはや完全なドライコンディションの中での走行となった。雲の切れ間からは強い日差しが注がれるようにもなり、かなり3週間後に控えた開幕戦に近い状況にもなったと言えるだろう。少しでも多くのマイルレージを稼いでデータを蓄積し、セットアップも進めたいところだったが……。飯田選手からのスタートとなり、9周目には1分31秒308をマーク。セッション1のタイムを更新するのは時間の問題だと思われた。だが、二度ピットでの作業を繰り返した



後は、沈黙が重ねられることに。駆動系のトラブルによって、30分あまりで走行終了となってしまったためだ。

セッション3は日曜日の9時からスタート。天候にも恵まれたこともあり、スタンドはもとより無料開放されたパドックには多くの観客が集まり、本番さながらの光景が広がっていた。トラブルの原因となったパーツも交換されたRC F GT3は、飯田選手からのスタートに。セーフティカーシミュレーションの後、本格的な走行が開始されるはずが、コース上に撒かれたオイルの処理のため、赤旗が出される波乱も。実際、1時間半ほどの走行機会となってしまふ。それでも再開から間もなく飯田選手は1分29秒936をマーク。折り返しを挟んで二回目の赤旗が出るが、前日の遅れを取り戻すべく周回を重ねていた。そして、1分28秒993にまで短縮を果たしたところで吉本選手と交代する。

吉本選手は、飯田選手とは対照的にイン～アウト(1周でピットに戻ってくる)を何度も繰り返して、セットアップを進めていく。そして、終盤にはロング(周回を重ねる)をかけた後、最後はアタックモードに突入。その結果、1分28秒732をマークして21番手につけることとなった。

13時30分からのセッション4は、スタート練習からの開始となった。本番さながらにマシンはグリッドに並べられ、岡山県警の白バイ、パトカーの先導によるパレードランの後、ローリングスタートが行われて計測が開始された。最初にRC F GT3のステアリングを握った飯田選手は4周目に1分30秒813を記録した後、最初のピットストップを行う。作業中にクラッシュがあり、赤旗が出されるもドライバーが無事だったのは何よりだった。1時間を挟んで二度目の赤旗が出される前にピットストップを行い、そのつどセットが改められていく。

そして、1分29秒174、29秒465と好タイムが連発されたところで、吉本選手に交代。三度目の赤旗が出されたこともあり、わずか2周の走行だったものの、1分29秒351が記録される。たび重なった赤旗中断のため、計測は10分延長されることとなり、再びマシンに乗り込んだ飯田選手は、そのままチェッカーまで走り続けた。タイムアップこそならなかったとはいえ、10周のロングをかけられたことは本戦に必ず実りをもたらすことになるだろう。このセッション4では18番手につけることとなった。

今回の公式テストは1週間後の3月26～27日、富士スピードウェイで行われる。ここでさらにセットを詰めて、完璧な状態で開幕を迎えることを期待したい。

Director's comment



チーム監督

小林 敬一

Keiichi
Kobayashi<http://www.koba-pla.net/>

今年のRC Fにはいろいろ変更点もあって強化もされていて、応答性は向上しているようですが、結果的に見るとタイムとしては、残念ながらあまり変わっていませんね。フィーリングは良くなっているのですが、タイムの向上にはつながらない。それが思いのほか苦しい。土曜日には予期せぬトラブルというか、壊れないはずのものが壊れているので、不安の種も増えてしまいました。とはいえ、今年もドライバーは変わらず実力はお墨つきのふたりなので、レースでは必ず小さいチャンスも拾いに拾って、確実にポジションアップするというレースの組み立て方になると思うんです。だから、どんな状況でもそれなりに走ってくれるクルマに仕上げたいと考えています。今年も頑張って耐える。その上で、小さいチャンスも全部拾っていきます。

Driver's comment 1



ドライバー

飯田 章

Akira
Iida<http://akira.jp/>

けっこうクルマをリフレッシュして走り始めた、今シーズン最初のテストなんですけど、なかなか思ったように走らないというか、クルマの方向性がちょっと見えなくて、本当に苦労しています。今後いろいろ良くてできると思うのですが、今回は思っていたより方向性が見えなかったんで、なかなか難しい。とはいえ、今の苦労が最後に報われるよう、少しでも努力していくつもりです。

Driver's comment 2



ドライバー

吉本 大樹

Hiroki
Yoshimoto<http://www.hiroki-yoshimoto.com/>

ちょっとアンダーステアに苦しんでいて、いろいろ試してみましたが、あんまり改善できずに終わってしまった感じでした。土曜日にはトラブルがあって、テストは早々に終わったのですが、中でもいろいろ試すことはできましたし、去年のテストでは全然できなかったトライが、いろいろできたので、まあまあ実りのあるテストだったのではないのでしょうか。土曜日の始まりは路面が濡れていて、その時のフィーリングは悪いものではなかったので、今年すべてのレースで雨が降ってくればいいなあ、と思っています(笑)。

